

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

知的障がいのある生徒が就労を通じた社会的自立をめざす学校

- 1 生徒一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばし、健やかな体と心豊かな人間の育成を図る
- 2 実践的な職業教育の充実を図り、仲間と地域の中での学びを通して、主体的に社会に貢献できる人材を育成する
- 3 泉北・泉南地域における知的障がいのある生徒の就労支援の拠点校として支援教育のセンター的機能を発揮し、学校の取組みを発信する

2 中期的目標

めざす学校像を実現するために専門性向上・人材育成・校内組織の発展的改正等を引き続き行う。めざす学校像の「知的障がいのある生徒の就労を通じた社会的自立をめざす学校」のさらなる充実発展と、卒業後の職場定着支援を念頭に、卒業後の豊かな生活獲得のための支援体制の計画立案を充実させる。そのために、管理職と首席・指導教諭が目標実現推進の舵取りを行い、各分掌・学年・教科等で十分な議論のうえ『運営委員会』を経て『職員会議』の場において全教職員の意思疎通、共通理解の促進、意見交換を行い円滑に業務を遂行する。また、『将来構想会議』を学校改革の推進組織として位置づけ、学校の諸課題の解決に向け具体的な計画立案を行う。その計画に基づき、全教職員がその主旨と内容を理解し、めざす学校像の具現化のため、下記の「中期的目標」を達成する。

- 1 高等支援学校教員としての専門性の確立・・・支援学校免許保有率 70%をめざす（H29 45% H30 61% R1 63%）
 - （1）支援教育の専門性と社会人としての資質向上
 - （2）短焦点プロジェクターや ICT 機器の積極的な活用による授業力の向上
 - （3）個々の生徒の特性に基づく個別課題の設定と、社会的自立をめざす教育実践の積み上げ
 - （4）支援学校免許保有率の段階的向上
- 2 安全・安心な学校づくりと地域に貢献できる社会人、職業人を育てる校内組織の充実
 - （1）安心・安全に過ごせる、学校・学習環境づくりの推進
 - （2）卒業後の豊かな生活を実現するため、関係機関の連携の強化と職場定着支援体制の構築
 - （3）働き方改革を念頭に置く、校内組織の見える化、効率的・効果的な職務遂行と時間外在校時間の縮減
- 3 地域との連携・協同による、知的障がいのある生徒の就労支援の拠点校としての力の発揮・・・（1）～（4）の取組みを通し、職場定着 100%をめざす
 - （1）『就労を通じた社会的自立』と『就労後の定着支援』をめざすため、保護者・学校の進路目標の共有と活動の充実
 - （2）就労支援に関する支援教育のセンター的機能の発揮
 - （3）積極的な広報活動と本校の教育の理解啓発活動の推進
 - （4）学校、福祉、企業等とのさらなるつながりの連携強化

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年1月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">1 高等支援学校教員としての専門性の確立</p>	<p>(1) 支援教育の専門性と社会人としての資質向上</p>	<p>(1) ア 教員の研究授業・研究協議の継続実施 外部指導者・管理職の授業見学、授業に対する指導助言の積み重ねにより授業力を向上させる。 イ 授業参観等の実施 ・依頼を受け積極的に授業を公開する。 ウ 人材バンク等外部人材の授業・作業への積極的活用 エ 支援教育の専門性と人権意識や教育意欲の向上をめざす研修等の実施 オ 教育課程委員会 教科会、職業専門学科会の定例開催による教育課程・シラバス等検討</p>	<p>(1) ア 初任者、インターミディエイト対象教員等を中心に研究授業・協議を実施(2回以上) イ・保護者対象授業参観は年2回、1回は公開授業週間の中に含み保護者だけでなく地域や併設校を含む他の支援学校、共生推進設置校等へ案内し参観する機会を設ける。 ウ 福祉人材(臨床心理士、作業療法士、臨床心理士等) 外国語講師(T-NET)、卒業生、企業・ビジネスマネージャー等の積極的活用 総計年間20回以上 (H30 10回 R1 19回) エ 「個別の指導計画」作成と評価、生徒理解等に関する支援教育の専門性向上をめざす教職員研修(人権・自立活動・教育課程・福祉関係等)の実施 (H30 5回 R1 12回) オ 教育課程委員会、教科会を月一回程度開催し、教育課程改訂やシラバス評価について検討する。</p>	
	<p>(2) 短焦点プロジェクターやICT機器の積極的な活用による授業力の向上</p>	<p>(2) ア ICT機器等を活用した授業実践を積み重ねる 学校経営推進費を活用する ・短焦点プロジェクターの活用 ・アクティブラーニングルームの活用 イ 生徒授業アンケート等の実施 ・生徒の理解度、学習参加度の確認とデータ分析</p>	<p>(2) ア・教員アンケート実施による経年変化と検証 ・アクティブラーニングルームを活用した研究授業実践報告会を実施 ・併設校同士相互の授業見学会研究協議を1回以上実施 ・併設校同士の交流授業を1回以上実施 ・共生推進教室設置校との遠隔授業を1回以上実施 イ 生徒授業アンケート等の実施により、肯定的評価90%の維持 ・先生は必要に応じてプリントや必要な道具・教材を使ってくれる。(講義系) (H29 91% H30 88% R1 90%) ・先生は必要に応じてプリントや必要な道具・教材を使ってくれる。(実習系) (H29 92% H30 88% R1 94%) ・アクティブラーニングの手法を使った授業のアンケート実施と分析 肯定的評価70%をめざす</p>	
	<p>(3) 個々の生徒の特性に基づく個別課題の設定と、社会的自立をめざす教育実践の積み上げ</p>	<p>(3) ア 個別的教育支援計画・個別の指導計画のさらなる充実と活用 イ 生徒自身が適性を知り、就労のための高い適応力を育む ウ 生徒・保護者のニーズを的確に把握し、就労へつなぐ エ 実践的な職業教育を通じて、高い職業意識を育む オ 社会貢献活動を通して、自他の存在価値を認めあえる人づくり カ 大学等と連携し社会とのつながりを強化する。</p>	<p>(3) ア 作成率100%の継続と、自立活動等の評価につながる個別の指導計画を含む評価の検討 イ 実習振り返りシートを活用して自身の苦手分野を知るための指導を行う。 就労率で評価する。 ウ 定着につなぐ移行支援計画を作成100%の継続 エ ・企業見学会 1, 2年で年2回以上実施 ・7月と11月に企業での現場実習実施 ・今年度同様、進路指導のプレゼンテーション大会3回開催 オ・年間2回以上の全校生徒による地域清掃等ボランティア活動実施 ・生徒会主体活動の実施 カ 桃山学院教育大学、大阪体育大学の学生とそれぞれ年3回程度交流及び共同学習を実施</p>	
	<p>(4) 支援学校免許保有率の段階的向上</p>	<p>(4) 特別支援免許保有率70%にむけて段階的に所有率を高める。</p>	<p>(4) 認定講習受講等で特別支援免許保持率70%以上を目標にする (H29 45% H30 61% H31 63%)</p>	

<p>2、 安全・安心な学校づくりと地域に貢献できる社会人、職業人を育てる校内組織の充実</p>	<p>(1) 安心・安全に過ごせる、学校・学習環境づくりの推進</p>	<p>(1) ア 生徒・保護者・教職員 緊急体制等の充実 イ 食物アレルギー対策委員会、医療的ケア対策委員会、学校保健委員会(泉南支援と合同)の開催による課題や情報共有と対策 ウ 救急救命法・心肺蘇生法・救急搬送体制研修の実施 エ いじめ・体罰防止研修の実施と生徒指導体制 オ メール・ブログ・SNS 被害の危険防止学習の実施と適切な SNS の活用指導 カ 安全点検等による、施設設備の現状維持 キ 生徒・保護者の教育相談、支援体制の充実・外部講師を招聘した講習会実施・理学療法士、臨床心理士、作業療法士との相談体制の確立・SSW を活用し支援環境体制の整備 ク 問題となる行動や未然予防の観点での生徒指導体制確立・教員の気づきによる報・連・相の徹底</p> <p>(2) 卒業後の豊かな生活を実現するため、関係機関の連携の強化と職場定着支援体制の構築</p> <p>(3) 働き方改革を念頭に置く、校内組織の見える化、効率的・効果的な職務遂行と時間外在校時間の縮減</p>	<p>(1) ア 訓練・研修等による緊急体制等の確立と備蓄品等の充実 イ 各委員会年2回の開催と対応の共有化 ウ 参加人数・アンケートによる研修内容の検証 エ 生徒対象年3回以上のアンケート実施と、教員向け研修3回以上の実施(R1 2回実施) いじめ対策防止委員会の年4回開催予定 学校教育自己診断生徒・保護者・教員肯定的回答率90%をめざす いじめが起こった際の体制と対応 生徒 (H29 84% H30 81% R1 82%) 保護者 (H29 89% H30 94% R1 82%) 教員 (H29 89% H30 94% R1 88%) オ 道徳・総合と情報の時間を活用し、SNS の危険防止学習は学年ごとに2回以上実施する。 カ 年3回の定期的な安全点検と日々の巡回による点検、速やかに修繕し状況を周知する。 キ ・講習会3回実施予定 ・PT・OT・臨床心理士の活用状況の検証 ・不登校生徒減少、中途退学者0名の維持 ク ・特別支援会議の経年的変化と検証 (R1 28回) 生徒指導に関する自己診断肯定的評価90%以上を維持する 生徒 (H30 91% R1 91%) ケ 将来構想会議月1回以上の開催 課題の共有と解決状況の集約 コ 安全衛生委員会を最低年3回開催し、職場環境の安全を図る。 (2) ア 卒業後1年間職場定着率100% イ 就労・生活支援センター、市町福祉部署等との連携 卒業時の連携100% (3) ア 経年変化を基にした検証 R1年度より毎月在校時間 平均10%減 イ 毎月1回の将来構想会議を中心に検討を継続し変化につなげる。</p>	

<p>3 地域との連携・協同による、知的障がいのある生徒の就労支援の拠点校としての力の発揮</p>	<p>(1) 『就労を通じた社会的自立』をめざす保護者・学校の進路目標の共有と活動の充実</p> <p>(2) 就労支援に関する支援教育のセンター的機能の発揮</p> <p>(3) 積極的な広報活動と本校の教育の理解啓発活動の推進</p> <p>(4) 学校、福祉企業等とのさらなるつながりの連携・強化</p>	<p>(1) ア 進路説明会等の充実(説明会・学習会・懇談会・企業見学会の開催)</p> <p>イ 保護者懇談会等で個別の教育支援計画・移行支援計画の話し合いを持ち、共通理解を図り作成する</p> <p>(2) ア 近隣の中学校、高校、教委、経済団体等への要望に応じて研修会講師派遣等を実施する</p> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共生推進教室設置校との毎週の打ち合わせによる授業及び行事交流の推進 ・共生推進教室設置校保護者との連携の推進 <p>ウ 地域へ本校の取組みの啓発と発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校訪問の実施 ・進学フェア参加 ・自立支援、共生推進教室、高等支援学校実践報告会説明会参加 ・オープンスクールの実施。 ・学校説明会の実施 ・企業向け学校家額セミナーの開催 ・共生推進・自立支援実践報告会 ・定着支援体制に関する研修会と報告会の実施 <p>(3) ア 全教員による職場実習先の開拓</p> <p>イ 地域への社会貢献と地域資源の活用、活動発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校周辺の店舗との交流等(すながわ高等支援学校展)及び製作物の展示販売等の実施 <p>ウ 教育活動の発信(学校 HP、学校・進路・学年通信の定期発行、連絡帳の活用)</p> <p>(4) ア クラブ部活動奨励(週3回以上全員参加)と他校との活動交流促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各クラブ年間計画、実施計画に沿った活動 <p>イ 各種検定等の取組みの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコン検定 ・漢字検定 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の支援学校、高等支援学校間との進路、生活指導、授業力向上、危機管理等での包括的な連携体制の構築 ・学校経営推進費を活用したアクティブラーニングルームの活用には、合同 P T を設置し活用を促進する。 	<p>(1) ア 進路指導について 学校教育自己診断アンケート肯定的評価 全て 90%をめざす R1 教員 86% 保護者 83% 生徒 91%</p> <p>イ 作成率 100%の維持</p> <p>(2) ア 実施回数前年度比 10%UP H30 3 回 H31 5 回</p> <p>イ・実施回数と内容の集計</p> <ul style="list-style-type: none"> R1 毎週の授業+行事 5 回 ・実施回数と内容の集計 <p>PTA 講演会、進路先見学会、授業公開、行事参観 R1 16 回</p> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校訪問 実施回数と集約 R1 10 校(電話のみを含む) ・中学校向け研修の実施 R1 49 名参加 ・進学フェア、実践報告会説参加 ブース参加者集約 R1 47 名 ・オープンスクール 参加人数 R1 534 名 ・学校説明会 参加校と人数 R1 122 名 ・企業向け学校見学セミナー R1 15 社 18 名 ・共生推進・自立支援実践報告会 R1 50 名 ・アンケート集約と売り上げ ・企業及び福祉等参加数の集約 ・ICT 機器を活用したアクティブラーニングの実践事例をホームページにて 1 例以上公開する。 <p>(3) ア 新規 30 社以上生徒特性に応じて開拓</p> <p>イ 本校周辺の店舗との交流等(すながわ高等支援学校展)及び製作物の展示販売等の実施</p> <p>ウ 月 2 回以上の学校 HP・ブログの更新の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月 1 回程度の通信発行(学年通信、保健だより等) R1 学校ブログ 29 件 校長ブログ 15 件 HP 更新 15 件 ・ホームページの抜本的な更新 ・新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う、各種施策に対応したホームページ構成 <p>(4) ア 活動報告集約</p> <p>イ 実施回数と参加人数の集約</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年度比 10%UP をめざす パソコン検定 27 名 漢字検定 19 名 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事、訓練、教員研修の合同実施を各年間 2 回以上 ・泉南・すながわ合同災害対策委員会の設置 ・月 1 回泉南支援学校との学校間連絡会の活用 ・地域の支援学校、高等支援学校連絡会議実施 ・アクティブラーニングルームの使用率を 60% 以上にする。(R 1 音楽室として使用 30%)
---	---	---	--